

東葛支部会報

第19号

千葉工業同窓会東葛支部

2010年4月1日



表紙写真は鎌倉の七里ヶ浜で撮影した富士山を載せてみました。

創立10周年を迎えあらたな出発

前回の第18回東葛支部会報でお知らせしました様に、東葛支部も創立10周年を迎えあらたな出発です。

東葛支部会報ですが、創刊号から第18号まで見てみますと、10年間の東葛支部の変遷が一目で分る貴重な会報です。本年度東葛支部定期総会(6月6日)で皆様に創刊号から第18号までの会報をお披露目いたしたいと思います。

さて、創刊号をちょっと覗いて見ると東葛支部創立総会を柏市の増尾近隣センターで開催され、当日の創立総会には安藤前会長、永峯顧問、景山元校長、段木元校長をはじめ本部・各支部の役員、会員など総勢74名の参加をいただき、総

会は立崎発起人代表による、創立経緯説明の後、規約・会務・予算の各案について審議が行われ、それぞれの承認をいただき、続いて役員を選出に入り、立崎発起人代表が初代の支部長に選出されました。

審議終了後、安藤前会長、永峯顧問、景山元校長、段木元校長から祝辞をいただき参加者全員で記念撮影をおこないました。(創刊号の表紙を飾っています)第2部の懇親会は、本部および各支部の皆様方から祝辞をいただき和気藹々のうちにあっという間に時間が過ぎたと創刊号に記載されております。又創立総会・懇親会の写真も豊富に掲載されており懐かしい会報です。

会員の皆様には、ご健勝にて毎日を有意義にお越しの事と御慶び申し上げます。

さて、ご存知の通り我々東葛支部は昨年6月、創立10周年を迎え、歴代校長先生、同窓会本部並びに各支部役員各位に御出席を賜り記念式典を開催。同窓会初の試みとして地元我孫子で活躍中の落語家を招き、笑顔・笑顔の式典となりました。

これも偏に東葛支部会員各位の暖かいご支援とご尽力による団結力の賜と心より感謝申し上げます。

そして忘れてはならないのは同窓会本部・各支部の皆様方の暖かさと厳しさをもってのご指導、ご協力を賜りましたお陰であると思います。

私も支部長を拝命して2年、今後15周年、20周年に向けて楽しく、有意義な活動を継続して行きたいと願い、気持を新たに『入会して良かった同窓会』を目標に再スタートをしたいと思えます。

そんな意味を含め今後の目標として、
一、会員の皆様にはクラス会等を通じ一人でも多くの

東葛支部会員増にご尽力を賜りたい。

二、支部役員は他支部の定期総会にはバランス良く参加すると共に本部、他支部のイベントに積極的に参加し、旧交の輪を広げる。

三、今後の支部会報には東葛支部のイベントは勿論、本部・他支部のイベントに関して出来るだけ、日時、場所、費用等を掲出致します。皆様のご参加をお待ち致しております。

先に申し上げました通り再スタートに当り変らぬご支援・ご協力を賜ります様心よりお願い致すと共に未筆ながら皆々様の益々のご発展をお祈り申し上げ創立10周年のご報告とさせていただきます。

尚、記念式典当日、

◎創立以来8年間に亘り、支部長として会員相互の親睦を常に考え我々をリードされてた立崎作次氏(現顧問)に感謝状贈呈。

◎創立10周年を記念して千葉工業高校の校章入り東葛支部旗を購入いたしました。

喜寿を迎えての26年工業化学科卒(一部23年卒)クラス会

東葛支部 顧問
26C 立崎 作次

去る、平成21年9月26日(土)千葉市のS先輩宅に於いて、上記のクラス会を3年ぶりに開催しました。昭和20年4月、紅顔の美少年達は、希望に胸膨らませ、県内各地、遠くは、方外、成田、木更津等々から、県下一と言われた検見川校舎、唯一の県立千葉工業学校へ入学してきました。(昭和22年制度改革により千葉工業高等学校になり、大部分が6年間在籍)

60年以上の年月が流れ、殆どが喜寿を過ぎ、1組、2組合わせ103名のクラスメートは、他界者、体調不良者等々も極めて多く、出席者は僅か14名でした。幸い、恩師の伊藤先生に御出席頂き、さらにS先輩も座に加わり、総勢16名となりました。11年前の第1回目の時は、参加者が多く、名前と顔が一致せず、思い出すのに苦労したが、今回は、その時の状況とは、一変し、強く時の流れを感じさせられました。

最初に、M氏の司会により、物故者への黙祷を捧げた後、N氏が代表挨拶を行い、恩師伊藤先生(88歳)よりお元気な人生経験豊かな御挨拶を頂きました。その後、K氏の乾杯の音頭により懇親会に入りました。

16名の参加者による宴会は、アルコールが入るのに伴い、会場の雰囲気は60年以上前にタイムスリップし、

化学科の動物園クラスと命名された時代に戻った様な状態になり年増の、ライオン、モンキー、シャモ等々も現れ、中学時代の雰囲気は復元した様な状態でした。

司会者が、これから自己紹介タイムとし、持ち時間は、自由にしますと告げるや否や、この時間は、年齢を重ねた人達の集団に代わり、紹介内容は、バラエティーに富み、病気対処法、農園経営、絵描き、商店経営等々の円熟さが醸し出されました。

その中からN氏が配られたピラ、年配者の(人生70歳より)を紹介します。

1. 70歳にて……お迎えあるときは、今留守と言え。

1. 80歳にて……お迎えあるときは、まだ早いと言え。

1. 90歳にて……お迎えあるときは、そう急がずともよいと言え。

1. 100歳にて……お迎えあるときは、時期を見てこちらからボツボツ行くと見え。

上記内容は、喜寿を過ぎた、クラスメートはじめ、高齢者には、含蓄のある内容です。3時間の懇親会は、タイムスリップし、化学科の動物園クラスと命名された時代に戻った様な状態になり年増の、ライオン、最後に、

筆者が閉会の挨拶を行い、出来れば各自が元気そう
ななクラスメートを誘い合い、多くの人が集まるように工

夫し、再会を誓い合い3本締めの手拍後、お開きとな
りました。

千葉工業歴代の校長について-2

第14代校長 永峯 清秀

最後の支部である東葛支部は、平成11年6月増尾
の近隣センターで発会式が開催されました。支部長
はファイト満々の立崎氏が就任され、同窓会本部顧
問の景山、段木両元校長、安藤会長等のご臨席の
下盛大に挙行されました。私は現役の校長であった
ためか、本支部の顧問に推挙され、大変光栄なこと
と謹んでお受けしました。あれから10年、東葛支部の発
展と充実は目を見張るものがあります。創設10周年誠
におめでとうございます。

私は昭和43年4月定時制電気科の教員として着
任以来、教諭16年、教頭3年、校長3年計22年間お

世話になりました。その間8人
の校長先生に仕えました。現
天野校長は19代目です。

従いまして、19人のうち、初
代から3代までの方を除く16
人の校長先生とは全てご面識
がございます。

さて、私の先輩の13名の校長先生方の偉大さにつ
いて、存じ上げている事を少々記したいと存じます。
間違いや不明な点があるかと思いますが、ご叱責、ご
提言が頂ければ幸甚です。



6. 6代校長 澤田 繁二(昭和44年4月～46年3月) 明治45年2月生まれ 鹿児島県出身

旧制第7高校卒 東京帝国大学文学部(現東京
大学)昭和10年3月卒

昭和40年千葉県教育次長、42年千葉東高校長、
46年千葉高校長

私の高校時代の恩師で国語を教わりました。指導
が大変厳しく毎時間必ず指名され、お陰で不得意な
国語が良く理解できるようになりました。また先生は、

本校の校歌の作詞者です。県下の数十校の校歌も
作詞されています。

校長室に「日々新又新」の額があるが、これは第63
・64代文部大臣森戸辰男の書である。澤田校長は森
戸辰男氏と面識があり、昭和45年、森戸氏が本校に
視えられ、その折揮毫されたものです。一年を残して、
千葉高校に転任されました。

7. 7代校長 西澤 正(昭和46年4月～49年3月) 大正4年3月生まれ 長野県出身

長野中学卒 東京高等師範学校体育科(現筑波
大学)昭和16年3月卒

西澤校長は33歳の若さで県教育庁の体育課長と
なられ、36歳で長生二高(現茂原高校)の校長となら
れた。超エリートであります。教育庁の学務課長(県

下全教員の人事権、懲戒権等の権限を持つ重要な
ポスト)から本校の高校に着任、部下の面倒が大変
良い先生でした。澤田校長同様、一年を残して千葉
女子高校へ転任、千葉女子高校の校長で高野連の
会長を務めたことは前代未聞です。

8. 8代校長 大森 嵩(昭和49年4月～52年3月) 大正5年8月生まれ 千葉県出身

安房中学卒 東京高等師範学校理科(現筑波大)
昭和15年3月卒

昭和38年京葉工業教頭、40年茂原工業校長、44
年京葉工業校長

物理の教員で自作の教材を用いて実験を展開し、

工業教育に強い関心を持っていたためか、工業高校
の管理職を長く務められました。お酒の好きな温厚な
人柄で、お正月等ご自宅に多くの職員を招かれ大宴
会を開られました。高野連の会長として財団法人
設立に尽力されました。

9. 9代校長 秋山 利雄(昭和52年4月～57年3月) 大正10年5月生まれ 千葉県出身

千葉中学卒、官立横浜高等工業学校電気化学科(現
横浜国大)昭和17年9月卒

昭和36年市川工業教頭、44年茂原工業校長、47
年国府台高校長、49年京葉工校長

39歳の若さで市川工業教頭となり、20年以上工業
高校の管理職として工業教育をリードしていました。
当時、新設高校の増設期で普通科志向が高まり、職

業高校が地盤沈下を起こしていた時期でしたが、秋
山校長は「もの作り」の重要さ工業教育の大切さを職員・
生徒に説いておられました。大森校長と正反対でお酒
が大嫌いな先生で、酒好きな私はよく叱られました。高
校の大先輩であったせいか、教頭候補試験に推薦し
ていただきました。しかし、不合格になってしまい、また
叱られました。本当にお世話になりました。

10. 10代校長 段木 正視(昭和57年4月～63年3月)昭和2年10月生まれ 千葉県出身

千葉工業学校卒、官立米沢工業専門学校(現山形大工学部)昭和23年3月卒

昭和46年県教委学務課、高校教育課長補佐、53年国府台高校長

前任の学校は組合管理の校長不在に等しい高校でありました。先生はそれを是正するため、県教委の管理・人事の中枢から単身派遣されました。組合の抵抗は激しく、連日、高教組新聞に「段木バッシング」の記事が踊りました。強い胆力と正義感で改革は進みました。

昭和57年4月1日、初の母校出身の校長が誕生しました。私は前任校の経緯から、「秋霜烈日」の厳しい校長という先入観を持っていました。しかし、玄関でお迎えの職員整列の中を笑顔で通る姿を視まして、「春風駘蕩」の穏やかな優しいお人柄という印象を強

く受けました。特に、若い先生方の意見を取り入れた学校運営をなされました。県教委との太いパイプをお持ちであったため、情報技術科のコンピューター式(4千万円)の更新、県下全ての機械科へNC工作機械(数億円)の導入、県下初の図書館へのエアコン設置、電子機械科への学科転換等本校のみならず、全県下の工業教育の推進・発展に尽力されました。

一週間の創立50周年記念行事、記念事業は中庭等の整備、PTA、同窓会、千工会との連携強化、職員・生徒のモチベーションの向上等、沈滞気味の本校を根本からの活性化に努められました。

個人的なことを申しますと、教頭試験に合格させていただき、清水高校の教頭に送り出していただいた。大恩ある校長です。

11. 11代校長 安藤 隆義(昭和63年4月～平成3年3月)昭和6年3月生まれ 千葉県出身

市原第一高校卒、千葉大学数学科昭和29年3月卒
昭和42年県教委社会教育課、55年社会教育課長、60年若松高校長

長年社会教育に携わり、社会教育のエキスパートであります。段木先生同様県教委とのパイプが太く、進路指導室の整備、LL教室の設置、浄化槽、教室棟の大規模改修等教育環境の整備に努められました。教育委員の行政的手法を導入した学校経営をなさっていました。例えば全職員とのヒアリング、トップダウンの決裁等であります。先生は「セッカチ」な性分で良く「

3秒、3分、30分」と言われていました。これは、質問されたら3秒以内で答える事、通知文などの書類を捜せと言ったら3分以内に捜し出す事、文書の作成は30以内との「無理難題」です。教頭として2年間任せましたが大変鍛えられました。ご自宅が近かったため、良く居酒屋でご馳走になりました。お酒が大変強く、一人で焼酎のボトル一本空けないと帰してくれませんでした。ここでもまた鍛えられました。校長試験の推薦を頂き校長への道を開いていただいた校長であります。感謝申し上げます。

12. 12代校長 鈴木 和美(平成3年4月～平成6年3月)昭和8年11月生まれ 千葉県出身

成東高校卒、明治大学工学部機械工学科、昭和31年3月卒、昭和55年社会教育課長補佐

56年銚子西高校教頭、58年9月京葉工教頭、60年市川工校長、平成元年京葉工校長

先生は昭和38年東総工業の創立に携われ、同校の応援歌の作詞者であります。

京葉の教頭時代一年間ご指導を頂き、市川の校長のとき私は葛南工業の教頭でまたご指導いただきました。先般、叙勲の祝賀会でカリスマ校長の話でしたが、先生はカリスマの三要素「品性」「哀愁」「不可解さ」を兼ね備えています。特に、「不可解さ」は際立っています。

一例を申しますと、校長試験の合格の通知は夕刻、所属校長宛に電話連絡できます。ある夜、他校の仲間の教頭から電話があり「俺は受かったが、永峯さんはどうだ」と、私は校長から何の連絡も無いので

不合格とあきらめました。翌朝、校長と打合せをしても、何も言いません。確実に落ちた事を確信しました。ところが、9時半ころ「校長室にすぐ来い」と電話があり行くと「今、教育庁から合格の通知があった、おめでとう」とのことであった。私の合格の通知は、昨日あったが校長は出張で不在、県教委は校長の自宅に電話しましたが自宅にもいません、行方不明です。このような重要な通知があるのに行方不明とは、危うく不合格になるところでした、本当に「不可解」な校長です。何はともあれ、私は鈴木校長のお陰で校長試験に合格できました。

退職後、千葉県高等学校PTA連合会の初代事務局長を務められ高P連の発展に尽力されました。その後、自宅で「晴耕雨読」でなく、「晴耕雨寝」の「悠々自適」の生活を送られています。今年の秋も「収穫祭」伺います。

13. 13代校長 渡邊 貞雄(平成6年4月～平成10年3月)昭和12年5月生まれ 山梨県出身

山梨県立峡北高校卒、千葉大学工学部電気工学科、昭和36年3月卒

昭和56年県教委指導課、62年指導課長補佐、平成元年市川工業高校校長

先生とは本校で同僚として十数年間、ご指導されたり、ご指導したりの刎頸の仲であります。大学の先輩であり、博識の先生です、特に固体電子論では右に出る人はいません。また、洒脱でユーモアある人で、ふざけて、私に戒名「酒乱院巨魔羅居士」をください

13人の先輩校長の事、お断りも無く書かせていただきました。無礼な事も書いて在るかと思存しますが、不肖な後輩に免じてご容赦下さい。

他支部行事に参加して

先日勤務していた会社の仲間に出会った時に同窓会の話をしたら、高校でそんな充実した同窓会組織が出来ている事に感心していた。

組織の設立から今日に至るまで並々ならぬご苦労された諸先輩に感謝申し上げます。在校時の3年間でどんな思い出が残っているか、思いかえせばこれといった思い出はない。しいて言えば通学に片道約2時間半の道のり、放課後クラブ活動に参加することもかなわず、3年間辛かったこと、苦しかったけれど無事に卒業出来たことしか思い浮かばない。

また組織に入会する時に、何をしてくれるのかと期待しては何も生れない、入会して自分が何を出来るのかと思えばそれが長続きすることだ。この事は何かで読んだか人に聞いた事だが、入会して7年目を迎え振り返ると正に後者のとおりだと思うが、こんなことを成し遂げたと胸を張って話す事はないが、今後とも出来る限り行事には参加して行きたいと思っている。

しかし学校時代には会うこともなかった諸先輩と気軽に話しあい、また行動する事が何のわだかまりもなく出来るのは、しがらみのないこと、損得がないこと、そして千葉工業高校に入学して卒業したと言うことがお互いの基本になっていることだと思われる。前置きが長くなったが本題に入ることにする。

今回千葉三支部共催の行事「高原千葉村一泊研修旅行」(2009.11.1～2)に木間事務局長と二人で特別参加した。三支部共催といえ多数の会員が参加されるのではないかと考えていたら、わずか17名の参加で我々2名を含み19名と少なかった。

ました。

若いときから教育相談に取り組み、その関係の著書を3冊出しました。先生の教育相談の講演会の渡邊節は保護者の皆さんから大変好評でした。

教頭試験を一発でクリアーし、県教委の指導課8年勤務、工業の名指導主事として今でも工業教員に尊敬されています。

本校の校長時代は創立60周年記念行事を成し遂げられました。

私(14代)以下の校長については、いずれ後輩の方がお書きになる事を期待しています。

34M 土屋 孝夫

以前実施した時は千葉市のバスが利用出来たので費用は安かったが、途中の観光はなく高原千葉村に直行するだけのこと。今回は観光バスで出かけるので、途中の史蹟「富岡製糸場」見学、谷川岳天神平とリング狩りのイベントが計画されていた。この違いで費用がかさむ事になり参加者が少なくなった一つの要因になった様だ。

11月1日NTT千葉駅前7時30分に集合してバスは一路群馬県へと向う。車内では早速幹事さんからビールやおつまみが配られ、さらに参加者の中にご自分で作られた「梅酒」・「カリン酒」等のアルコールと丹精こめて作られた落花生の殻ごとゆでたつまみ等が配布された。特に落花生は子供の頃食べた思い出の味が懐かしかった。だがこれから最初の見学地、世界遺産登録を目指している「富岡製糸場」、ここで市職員の案内人がつくため、酔っ払い団体となってしまうと誰が言うわけではないが、そこは千葉工卒の面々アルコールは控えめにして上信越自動車道富岡ICをおり、「よろずや」にて昼食後「富岡製糸場」見学となった。

富岡製糸場について少々述べる事にする。

明治5年政府が日本の近代化のために最初に設置した「官営模範器械製糸場」である。鎖国政策を変えた日本は、外国との貿易を始めたが、最大の輸出品だった生糸は輸出の急増によって生産が追いつかず、その結果、質の悪い生糸が大量に作られる粗製濫造問題を引き起こし、日本の生糸の評判が下がった。そこで政府は生糸の品質改善・生産向上と、技

術指導者育成のため、最新式製糸器械を備えた工場を造ることにした。そこで当時横浜商館勤務の「ポール・ブリュナ」を雇い入れ、上野（現群馬県富岡）に場所を決定した。

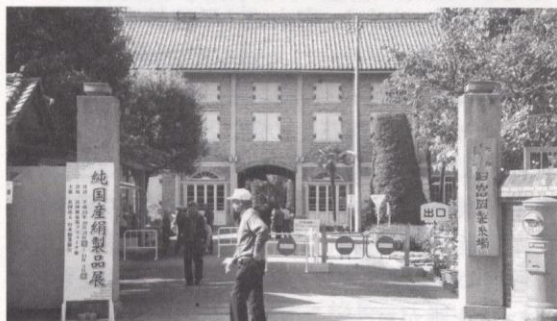
決定の要因は

1. この地で養蚕が盛んで繭が確保できる。
2. 建設に必要な広い土地が用意できる。
3. 製糸に必要な水が既存の用水を使って確保できる。
4. 燃料の石炭が近くの高崎・吉井で採れる。
5. 外国人指導の工場建設に地元の同意が得られた。

以上の条件決定で明治5年7月レンガ造りの建物がほぼ完成し、器械類はフランスから買入れフランス人工女4人が指導にあたった。

フランス人が飲んでいたワインの赤い色を見て、この工場に入る日本人は、当初生き血を吸い取られると恐れられたこともあり人を集めるために大変な苦労があった様だ。従って最初は侯爵・伯爵等の子女が入り、技術を取得した後各地の指導者として活躍した。寄宿舎（現社員寮）に寝泊りしての生活で、外部に出る時は許可を取る等で大変管理が厳しかった様である。

その後この工場は明治26年に三井家に払い下げられ、明治35年横浜の生糸商「原合資会社」に渡り、昭和14年片倉製糸紡績会社（現片倉工業）の所有となり、昭和62年まで約115年間操業を続けた。



平成17年7月14日付けで「旧富岡製糸場」として国の史跡に指定され、同年9月30日付けで地元富岡市に寄贈された。現在は市が管理し平成18年7月5日国の重要文化財に指定された。

私事になるが現在一緒に生活している92歳の義母が、昭和の始め娘時代にこの工場で働いていたことがあり、また母方の祖父が大正時代に横浜で生糸の貿易に携わっていた、そんな目に見えない糸で引き寄せられた気がしてなおさら興味がわき特別な感で見学することが出来た。

見学終了後、上信越自動車道に戻り関越道月夜



野ICから本日の宿泊地「高原千葉村」へ向う。ここは千葉市が管理運営している施設で「市民のふるさと」として広く親しまれている保養施設で、テニスコートを始めとする各種のスポーツやハイキング等も出来る広大な土地を有し、四季を通じて家族やグループで憩いの場として利用が出来る。お風呂は温泉でゆっくりした後は夕食と懇親会が行われた。

懇親会では嶋村千葉東前支部長が手品、どじょうすくい、玉すだれと次々に素晴らしい妙技が続けられ、ご本人からも一つの席で三つの演技を披露した事は今までにないと言われた。盛り上がった宴席カラオケも始まり楽しい一時を過ごすことが出来た。

翌朝は宿泊の市民ロジ前前でラジオ体操が行なわれ体をほぐし、朝食後谷川岳天神平へと向う。

天気予報では雨が降るようであったが、幸いに日も射ってきて紅葉に映える山々が綺麗であった。ロープウェイ、リフトと乗り継いで天神山山頂へ登る。残念ながら「日本百名山」の一つ谷川岳は雲に隠れてみる事はできなかった。天神平は冬になるとスキー場となり大勢のスキー客が訪れる、私も20代の時は毎週のように上越のスキー場へ来ていた。なおここは5月のゴールデンウィークでも滑走可能で何度も足を運んだ場所で懐かしさを覚えた。一息ついてバスに戻りリンゴ園へと向う。この頃になると雨がぽつぽつと降り始め、リンゴ園では雨の中傘をさしてのリンゴ狩りとなり、ゆっくりとリンゴを味わいながらとはいかず残念であった。

本来の予定ではこのリンゴ園で美味しい空気のか昼食の予定であったが、雨ではどうすることも出来ず、車へ戻りここで幹事さんが用意してあったインスタント味噌汁付きのおにぎりをいただいた。

その後水上ICから関越道に入り昨日出発した場所NTT千葉駅前に到着、途中の道もすいており順調に走れたので、予定の時間より早く到着できたのは何よりであった。

他支部の行事に参加でき色々な方々と楽しく2日間を過ごすことが出来た事は何によりの思い出となった。幹事の吉田千葉東支部長並びに齊木さんの計画と隅々

に渡る詳細な準備、参加者に対してのお気づかいをいただき楽しかった1泊2日の旅をさせていただきました。関係者の皆さん本当に有難うございました。

千葉工出身の会社OBで旅行会をやっています

32M 中村 軍治

このグループは「飯塚会」と称し、今から22年前に発足しました。

千葉工業高校の卒業生で、同じ会社の「飯塚寮」に入って同じ釜の飯を食べ、只ひたすらに会社へ往復していた者達です。男子専用寮と言っても、近くには生糸会社の女子寮も有ったので、たまには、クリスマスパーティー等で交流もありました。

さて、会員ですが、S26年卒～S32年卒で機械科が、殆どです。今では10数名になってしまいましたが、東葛支部、京葉支部、北総支部、外房支部地域の人達で構成されています。足はマイクロバスをレンタルし、ドライバーは会員の趣味の会「木彫り工芸」で知り合った、観光バスのドライバー経験者2人が一年交代で運転しています。

旅行先は関東甲信越、東北方面で、群馬、栃木、福島、山形、宮城、新潟、長野、岐阜、山梨、静岡等各県の「日本秘湯を守る会」に所属する宿を主体に、毎年1回「温泉と紅葉を訪ねる旅」を行っているわけですが、本当にひっそりした宿ですから、大型バスでは入れない所が多く、カラオケ設備もありません。源泉掛け流しで、木造の建物でない「守る会」の条件に当てはまらない訳ですから、素晴らしい眺めと、趣向を凝らした露天風呂が有り、本当に心が癒されます。主な温泉地として、白骨温泉、七味温泉、角間温泉、蕨温泉、鷹の巣温泉、銀山温泉、新穂高温泉、尻焼温泉、白布温泉、西山温泉、そして一昨年は奥鬼怒

温泉郷の八丁の湯へ行って来ました。ここは50年前に当グループの前身であった「千工同志会」で登山後、鬼怒沼湿原から辿り着いた宿で、当時は電灯が無く、灯油ランプが唯一の照明でした。そんな薄明かりの中、早朝20歳前の私が一人で温泉に入ろうとしたら、誰かが湯船に浸かっていたのです、よく見ると宿の女将さんの様でした。慌てて別の露天風呂に逃げ込んだ経験があったのです。昨年からは私が幹事になったので、その事を思い出して是非この温泉に、行きたいと思って実行した訳です。

今では電灯こそ有りますが、宿へ客の車は入れず、途中女夫淵から宿の送迎車で、30分位かけて、砂利道をガタゴト揺られて宿に着きます。太い丸太のログハウスに泊まりました。露天風呂は4～5個あり、混浴も有るようですが、残念ながら時間的に余裕が無かった。岩をよじ登って入った風呂が印象的だった。なにしろ源泉が8つも有ると言うから、正に秘湯中の秘湯です。

紅葉は乗鞍高原、上高地、会津、越後、蔵王等名所は多いが近場では日光霧降高原や中禅寺湖が素晴らしいと思います。

昨年(H21年)の旅は何時ものマイクロバスのドライバーが高齢となり、問題が起きないうちにこの方式を止めようと言うことになり、地元千葉の白子温泉泊とし、途中銚子のマリンパークやヤマサ醤油見学をしました。ホテルの車で一日観光が出来るので、地元千葉も見直そうと暫く続けたいと思っています。

「再び奥能登へ」

34M 金子 賢

「モリちゃん、来月、能登に行こうと思っているんだけど、一緒に行くかい？ 9月中旬に『酒蔵コンサート』を開催する知らせが来たんだ」。

09年8月上旬、2年連続の能登半島ドライブ旅行を企画した。時々「飲み会」を開いている仲間に再度のドライブ旅行の誘いをしてみた。実は1昨年秋も訪ねた酒蔵なので、「また？」と思われることを心配していたが、快く「行きたい！」との返事をもらった。1昨年は「能登に行ってみよう」という相棒の希望に応じて

「酒蔵訪問」を組み込んだ旅(ドライバー2人の3人旅)でしたが、今回はドライバー1人の2人旅だ。目的あつての日程づくりに楽しみが膨らんできた。

この酒蔵とは、初めて訪問した時からのメル友で、地酒を注文したり、若女将のブログを覗いては情報を知って、東京ビッグサイトや東京ドームに出掛けたり、湯島天神での地場産業の宣伝など、奥能登ウェルカムプロジェクトを立ち上げて「能登井」を生かした地元の活性化に奮闘しているところに共感してしまっ

さて、2泊3日の日程で酒蔵コンサートはもちろん、どこまで足を伸ばせるか？ 奥能登を1周するにはどこに宿を取るか？ 能登井はどこで食べられるか？ 等々考慮したら全走行距離が1400kmになった。

出発日の9月12日は曇り、朝3時起床。待合せ場所の竹橋到着6時45分、先着していたモリちゃんが出迎えてくれた。2人旅なのですぐ出発。一路、石川県能登町の松波酒造を目指して—首都高から関越道、上信越道、北陸道を走る。シーズンの谷間とあってスイスイ走る(3日前にタイヤ交換したので食いつきが最高)。途中、横川、妙高SA(ここを過ぎて雨模様となる)で休憩、1昨年立ち寄った「親不知ビアパーク」を横目に昼食場所の有磯海SAへ、約5時間を予定通りの時間で走行。

いよいよ能登半島の付け根、小矢部砺波JCTから能登自動車道に入り、氷見、羽咋を過ぎ能登有料道路で本日目標の一つ目の道の駅「桜峠」に到着。野球ができるほどの駐車場を備えたこの駅長さんは、この年2月に湯島天神に見えて奥能登を宣伝に来た「マッキー駅長」です。突然の立ち寄りを歓迎してもらいうれしかった。うまいコーヒーを飲んで元気回復、25分ほどで松波酒造に到着、若女将に逢いコンサート会場(酒蔵をこの日のために空ける)を見せてもらってから宿泊先の民宿「もとひら」へ。予定より30分早く1日目のドライブは終了(633km走行)。

小休止してから民宿のご主人に送られてコンサート会場へ。開演間近には約70人の参加者で満席に。パルマーというカナダ人のポップス&フォークのグループ(女性ボーカル1人、ギターとカホンという打楽器を演奏する3人の若者)が、オリジナル曲を混じえたポピュラー曲を8曲ほど歌い、みんなで合唱したりして楽しいコンサートだった。再び宿泊先に戻って夕食。ご主人が同席していろいろと話が進むうち、私と同年齢であることを知り、一層話が盛り上がり、挙げ句には地酒を振る舞ってくれた。

翌朝、早く目覚めると窓辺から静かな潮騒が聞こえてきた。窓を開けてビックリ、目の前には富山湾が広がり、遠くに北アルプスが見えるのだ。その山並みの頂が明るんできた。日の出が真正面に見えるのにちょっと興奮した。カメラを出して日の出の瞬間を撮る。朝食までの時間は海岸を散歩、ここが奥能登の名所でもある「恋路海岸」で、近くには今は廃駅となった「恋

路駅」が昔の面影を残していた。前年は通過したところだ。

定刻に民宿を出発。珠洲市を経て緑剛崎灯台(狼煙)へ。この日は上気分でドライブが一層楽しい。道路は舗装されているが狭く湾曲しているところが多く、ドライビングは面白いがスピードは出せない。燈台見学では突然のスコールにも遭う。日本海の荒波を横目に海岸線のドライブは輪島まで続く。途中、白米千枚田で小休止、輪島を抜けて総持寺祖院前を通過して能登・門前のレストランへ。能登井を注文したがこの時期は休止とか。残念！ 能登井に似た定食で我慢、それでも一人前2000円だ。予定時刻を30分オー

パーで能登金剛・巖門へ。荒波が削ったのであろう勇壮な岩穴の景観を見た後、能登有料道路を下って金沢東ICから加賀ICで降り東尋坊へ。ここは41年前、新婚旅行で来たところ。あの頃とは大分変わっていた。ここから10分程で芦原温泉街に入る(302km走行)。投宿先はあわらグランドホテル。夕食までの時間、屋上の檜風呂で汗を流す。

最終日は曹洞宗総本山の永平寺を見学して帰路に。北陸道、名神高速道、中央道を経て出発時と同じ竹橋まで(605km走行)。途中、SAに入り損ねてガス欠寸前までの走行があり、ナビをやってくれたモリちゃんと地図とメーターのにらめっこ、談合坂SAに入ったときには赤ランプが付いた。

3日間で1500余km。70歳寸前のオヤジがやることではないね～。その後の反省会で、「来年も行こう。今度は東北がいいかな？」っていう声が出たよ。元気なうちに何でもやってみるかー。



千葉工M34同期仲間は、パソコンでメール交換を行っている。ある時一人の仲間から、「JR運賃計算の特例」を利用して、1駅分の料金でほぼ千葉県一周の旅をしたとのメールが届いた。詳細を確認すると確かに右図のような特例がある事が判明した。

改めて内容を確認すると、一駅の運賃で上図の路線の中で重複しない限り自由に乗る事ができる。Suica・PASMO等のカード使用は不可、切符か回数券を使用する。また途中下車は出来ない、途中下車の時は通常運賃との差額を支払う事になる等の制約がついている。

神奈川に住んでいるわが身としては、この制度を利用して関東1都6県を一回り出来ないかと思い、仲間のアイデアを利用して戴き計画を始めた。JRの駅は南武線の武蔵溝口駅が近くにある。この駅の一つ先(立川寄り)に津田山駅があるので、この駅を出発駅にして時計回りで武蔵溝口へ行く方法を調べる。まず南武線・中央線で八王子駅(東京都)～八高線(高麗川経由)で高崎駅(群馬県)～両毛線で小山駅(栃木県)～水戸線で友部駅(茨城県)～常磐線で(千葉県は我孫子・柏等通過)上野駅～京浜東北線で川崎駅(神奈川県)～南武線で武蔵溝口駅へとこのルートを見つけた。これで1都6県一筆書きの旅が可能であると判明した。

通常だと津田山駅から武蔵溝口駅は1駅料金130円、時間は約2分(徒歩でも25分位)のところであるが、ここを逆周りで1都6県を回るルートで調べを更に進めた。調べてみると日中は八高線(八王子～高崎)が高麗川から高崎間が1時間に1本、両毛線(高崎～小山)がほぼ1時間に1本、水戸線(小山～友部)が1時間に1本であることがわかり、この3線をいかに乗り換えの時間を調整出来るかが成功の要因となる。以前ならば列車時刻表とにらめっこをしながら関係を調べなければならぬが、ここがパソコンの素晴らしいところ、インターネットで路線情報や駅から時刻表を調べると、上手く接続が出来る事がわかった。

その結果、津田山駅発5:11の電車で乗車、時計回り



で行くと最終武蔵溝口駅に15:45に到着する事が判明した。何と料金130円で、移動時間約10時間、総計距離約405km強、通過駅120駅の計画が完了した。「時は金なり」とのことわざがあるが、通常だと2分の時間を10時間かけて行動する、この事がはたして時間を有効的に使うことになるのかと思うも、そんな思いを気にしては何も出来ない。

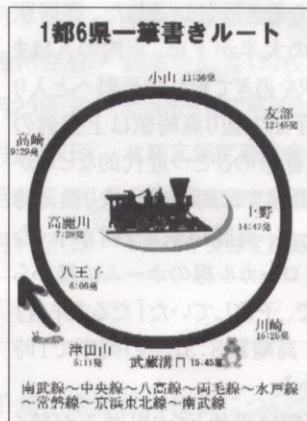
こんな途方もない計画をした事によって、過去の色々なことを思い出すものである。

(その一) 現在でもJRの列車が1時間に1本しか走っていない路線があり、半世紀前千葉工への通学で当時総武本線利用、時間帯によっては1時間の間に列車1本もない空白の時があり苦労したこと。

(その二) 高崎駅は若い頃冬場に上越のスキー場へ行く時は必ず通過した駅で、大雪のため列車が動けず駅の待合室で夜を明かした事、また当時の「だるま弁当」は40年以上経過した現在でもまだ健在で販売されていること。

(その三) 友部駅では当時ゴルフが大勢利用する駅であったので、休日になると1駅だけの乗車券が多数売れ、これはおかしいと調査したところ、ゴルフが帰りに1駅の券を購入して乗車、下車する時は定期券を使用するキセル乗車が発覚して大きな問題となった。

それに比較し今回の旅は規則にのっとったものであり、正当なものであることを計画の最後で述べておきたい。



計画は立てたがいざ実行となると色々余計な事が頭の中をよぎります。今までJRの鉄道路線の八高線、両毛線、そして水戸線は機会がなかった関係で乗車した事がない。それを走破してみたいとの意欲に駆られ5月23日(土)実行する事にした。連れ合いにそ

のことを告げると、「え!!!」本当に行くの物好きね、との声に送られ出発した。早朝のため駅まで歩く道筋には車も人もまばら、これからの10時間の長さが少々気になって来た。駅で切符(130円)を買い、ホームへ上がるも土曜日のせい人影は少ない。そうこうする内に目的の5:11

発の立川行き電車が到着し、いよいよ旅の始まりと乗車した。(写真は津田山駅) 乗客はまばらで停車する駅でも乗降客は少ない。暫し走ると南多摩駅を通過し、多摩川を渡り東京に入



た。立川駅で中央線に乗り換え八王子へと向かう。この辺は時々利用する路線なので周囲の風景は見慣れたものであるが、多摩川梨畑が年々少なくなり、高層ビルマンションが多くなってきた事が目についた。八王子駅到着で八高線ホームへ、乗換えに2分しかなく忙しく駆け込むと直ぐ発車した。単線のため所々の駅で上り電車の待ち合わせとなる。東福生駅を過ぎると右側に広大な敷地の「米軍横田基地」が現れた。箱根ヶ崎駅を出て少し先で埼玉県に入る。この辺りで家を出て約2時間の経過となった。埼玉県、この辺りからはゴルフ銀座と言われるほど多くのゴルフ場が連立している。乗車した電車は川越行きのため、高麗川駅で乗り換え高崎へ向かう、ここで予定時刻より1列車早く乗車が出来たのでかまわずに高崎駅へと向かった。この事がその後の計画していた行動にずれが生じる事になった。高麗川駅からの乗客はゴルフ族、ハイキング族が多いが、何故か土曜日にもかかわらず女子学生の姿が目につく。電車の両側は緑多い森林が続き、気持ちが落ち着き暫くほっとした。寄居駅でゴルフ族、ハイキング族の大半が下車、車内の人まばらになって来た。丹荘駅を過ぎて暫し群馬県へと入り高崎駅到着となった。ご存知の通り高崎駅は上信越の新幹線も停車する地方大都市のひとつ近代的なビルが立ち並んでいる。当初の計画では両毛線に乗り換え時間約30分の予定であったが、高麗川駅で1列車早くなったため約10分しかなく、ローカル線のホームは端から端へと移動を要したので、予定していた「だるま弁当」を買う事が出来なかった。高崎駅8:37発の列車で1時間45分かき小山駅へ向かう。

乗客は比較的多く、両側は平地となり町並みが続く新前橋、前橋駅を過ぎると乗客もまばらになって来た、と共に周辺は黄色の絨毯、収穫間もない麦畑が多くなって来た。渡良瀬川を渡り桐生駅、ここで1両編成の「わたらせ渓谷鉄道」の車両と出会う。この先少々で栃木県へと入る。この辺は見渡す限りの田園風景が広がり、

農家のひとびとの田植え作業(ほとんど田植え機)等が目についた。思川駅の先で思川を渡り小山駅へと到着した。ここでも計画では乗り換え時間30分の予定であったが、約10分程度の待ち時間しかなく、何もすることが出来ずに水戸線の列車に乗り込んだ。小山駅からの乗客も何故か女子高校生が多い、結城駅をすぎると鬼怒川を渡り、下館駅でほとんどの乗客は下車して車内はガラガラになった。車窓右側には筑波山も見え風景は変化してきた。群馬県、栃木県と異なり茨城県は畑が少なくなり水田が多く目につくようになった。かれこれするうちに友部駅へ到着、ここでも常磐線に乗り換えの時間は5分しかなく何も出来ない。

友部駅からは一路上野駅へ1時間55分の旅となる、今までのローカル線?と違い途中駅で下車する人よりも乗ってくる人の方が多くなり、車内からの撮影は遠慮した。早く上野へ到着することを願うばかり、取手駅を通過して利根川を渡り千葉県に入るが、我孫子、柏、松戸と通過する。松戸駅を過ぎ江戸川を渡ると東京郡に入り、見慣れた都会風景が現れ車内は人ごみで普段と変わらない状況に、ほっとする気持ちと旅の終盤を迎えた安堵感が沸く、上野駅13時40分到着しやっと昼食を取ることが出来た。

その後京浜東北線で川崎駅へ、ここから南武線で最終駅となる武蔵溝口駅へ14:45到着し、1都6県一筆書きの旅(120駅、約405k強、130円)は無事に終了した。(写真は武蔵溝口駅)

この旅について、乗り換えの時間以外は、列車の中で過ごすしかない束縛された約10時間



間に及ぶ時が何だったのか、自分でもわからない。駅を出るといつもと違い我が家が懐かしく思えたのは、計画を遂行した安堵感から来るものだろうか。

世の中には知らないで損をすることも多々あるが、この規則を知って徳をしたと言えるものでもない。ただ一見面白そうな規則を知り計画、そして実行しえた満足感を素直に喜びたい。

また、我が国の鉄道路線・運行時刻、それを正確に守るために日常業務に携わる人々の働きに敬意を表する。

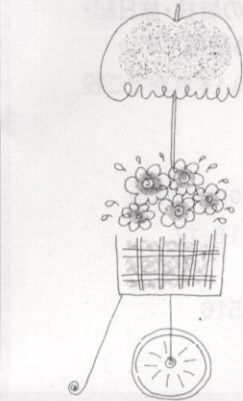
● 皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい ●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

- ゴルフ 櫻井 一三 〒279-0022 浦安市今川4-8-7 TEL.047-352-5569
- ハイキング 釣り 木間 英一 〒270-0002 松戸市平賀125-10 TEL.047-343-0455
- 囲碁・麻雀 高橋 健一 〒270-0157 流山市平和台5-400 TEL.04-7159-9367
- スーパー 紙とんぼ 鎌形 武久 〒270-2241 松戸市松戸新田21-3 TEL.047-364-5084
- 茶道 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516 TEL.047-393-0850

今後の予定



東葛支部の予定

- 平成22年
- 3月20日(土) 定例会議(高柳近隣センター)
 - 4月7日(水) 会計監査(かつ美)
 - 5月15日(土) 定例会議(高柳近隣センター)
 - 6月6日(日) 第11回定期総会(我孫子・鈴木屋本店)
 - 7月14日(水) 魚釣(キス)(吉野屋)
 - 7月17日(土) 定例会議(高柳近隣センター)

本部・他支部の予定

- 平成22年
- 2月19日(金) 第25回同窓祭実行委員会(千工会館)
 - 3月14日(日) 南総支部定期総会(木更津市民会館)
 - 4月4日(日) 第25回同窓祭(母校食堂)
 - 4月10日(土) 本部主催ハイキング(臼井周辺)
 - 4月11日(日) 外房支部定期総会(東金市・八鶴亭)
 - 4月24日(土) 千葉市西支部定期総会(千葉市・プラザ菜の花)
 - 4月25日(日) 竹の子祭り
 - 5月9日(日) 京葉支部定期総会(船橋市・玉川旅館)
 - 5月16日(日) 同窓会総会(母校)
 - 5月23日(日) 市原市支部定期総会(市原市・サンプラザ市原)
 - 6月13日(日) 北総支部定期総会(香取市・大藤)
 - 6月20日(日) 千葉市東支部定期総会(千葉市・プラザ菜の花)
 - 7月11日(日) 千葉市中支部定期総会(千葉市・プラザ菜の花)

編 集 後 記

支部会報第19号をおとどけします。
今回の会報記事は諸先輩方々のクラス会の記事や旅行の記事等沢山の原稿を出して頂き、会報がまとまりました。

又、前回の会報で皆様方が非常に興味を持たれた、当支部の顧問でも在ります、永峯先生が書かれました、

「千葉工業歴代の校長について」の記事も引き続き掲載します、この記事は千葉工業高校の歴史を語る貴重な原稿です。

富田 博

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第20号の原稿募集

東葛支部会報第20号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成22年9月
2. 原稿締切 平成22年8月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第19号

発 行	平成22年4月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 吉田勝彦
事 務 局	事 務 局 長 木間英一
編集責任者	編集委員長 坂巻 実